神奈川県森林協会

# 緑の斜面

令和6年07月31日発行
No.083

木もれびの森で開催された緑の祭典"かながわ未来の森づくり"2024 in さがみはら

## CONTENTS

森のニュース
令和6年度　神奈川県の森林・林業における取組について
~「緑の祭典"かながわ未来の森づくり"2024 in さがみはら」を開催しました~ 1

森林環境
譲与税の取組
茅ヶ崎市「特別緑地保全地区の広葉樹材で屋外ベンチを作成」
~清水谷（しみずやと）における森林整備発生材の有効活用推進~ 5

わが市わが町
箱根町
~豊かな森林づくり事業について~ 7

森林づくり活動
グループの広場
特定非営利活動法人相模原こもれび
~市街地に奇跡的に残る「木もれびの森」　森づくり活動~ 8

事務局便り 10

# 森のニュース
# 令和６年度　神奈川県の森林・林業における取組について

植樹会場の様子

## 1.「緑の祭典“かながわ未来の森林づくり”2024 in さがみはら」を開催しました

### １．はじめに

５月 26 日（かながわ森へ行こうの日）に、（公財）かながわトラストみどり財団、神奈川県及び相模原市の共催にて、「緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら～相模原市市制施行 70 周年記念植樹祭～」を相模原中央緑地（木もれびの森内）で行いました。

### ２．緑の祭典について

緑の祭典とは、平成 22 年５月に開催された第 61 回全国植樹祭を契機として、県民参加の森林づくりを推進していくため２年に１度開催している植樹イベントです。今回は、都市と自然のベストミックスを掲げる相模原市において、森林とのふれあいを促進するイベントとして開催し、当日は晴天に恵まれ、717 名に参加いただきました。

まず、参加者にナラ枯れ被害木の伐採跡地にコナラやクヌギ、ヤマザクラなどの苗木を植樹していただきました。なお、植樹後の手入れについては、木もれびの森を管理するボランティア団体と、（公財）かながわトラストみどり財団、相模原市の３者が管理していく予定となっています。

植樹する参加者

説明を聞く中学生たち

植樹には公募による一般参加者の他に、会場近隣の小中学校に通う生徒も参加し、地元の緑に触れ合う機会となりました。

植樹後は記念式典を執り行いました。式典では 2023 年ミス日本みどりの大使の上村さや香さんが司会をつとめ、こもれびサックスアンサンブルのプロローグ演奏から始まり、

こもれびサックスアンサンブル

県の尾埆 ( おさこ ) 環境農政局長と相模原市の本村市長の挨拶のほか、長年森林ボランティア活動を行ってきた方へ感謝状を贈呈しました。

また、相模原市と株式会社スポーツクラブ相模原の間で、森林づくり活動やさがみはら津久井産材の利用などに連携して取り組むことを趣旨とした協定の締結式を行いました。

式典の最後には、来賓およびみどりの大使が、相模原市みどりの少年

記念植樹後の記念撮影

協定締結式

団と相模原療育園の方の介添えのもと、相模原市の木であるケヤキと、ヤマザクラ、イロハモミジの植樹を行いました。

記念植樹後は、県水源環境保全・再生イメージキャラクターのかながわ　しずくちゃんと、相模原市マスコットキャラクターのさがみん、SC 相模原マスコットキャラクターのガミティと一緒に記念撮影を行いました。

式典のエピローグとして、みどりの大使の上村さや香さんによるミニコンサートで締めくくりとなりました。

また、式典後には緑の募金活動も行われ、みどりの大使の上村さや香さんと緑の少年団の皆さんが会場をまわり寄附を募りました。

## 3．その他の催しについて

午後は自然観察会と木造住宅等見学会を行いました。

自然観察会では、木もれびの森内を森林インストラクターが植物などの解説を行いながら、参加者と共に散策をしました。また、コース内では、ポイントで木もれびの森で活動を行っているボランティア団体の方による、活動内容の紹介など貴重なお話を聞くことができました。

自然観察会

住宅等見学会では、木材加工現場（株式会社市川屋）と、さがみはら津久井産材をふんだんに使用したモデルハウスやアパート（創和建設株式会社）を見学しました。

住宅等見学会

一日を通して出展ブースも賑わいました。県は水源環境保全・再生の取り組み等の紹介、相模原市は VR を使った森林浴体験や大学と連携した取組の紹介等を行いました。他にも丸太切り、ウッドカーレースなどの体験型のブースも多く出展されました。

出展エリアの様子

また、木もれびの森を管理するボランティア団体による取組紹介や、木材を使用した製品の販売も行われ多くの人が集まりました。

## 4．おわりに

今回の緑の祭典も多くの方に参加いただき、盛況に終えることができました。ご協力いただいた関係者の皆様､誠にありがとうございました。

【これまでの緑の祭典開催状況】

| | |
|---|---|
| 2012 年 | 南足柄市 |
| 2014 年 | 川崎市 |
| 2016 年 | 小田原市 |
| 2018 年 | 箱根町 |
| 2022 年 | 秦野市 |
| 2024 年 | 相模原市 |

# 2. 神奈川県における花粉発生源対策について

## 1　はじめに

花粉症は、花粉によって引き起こされるアレルギー症状です。中でもスギ花粉症は、国民の４人に１人が罹患しているといわれ、社会的な問題となっています。

スギ花粉飛散の状況

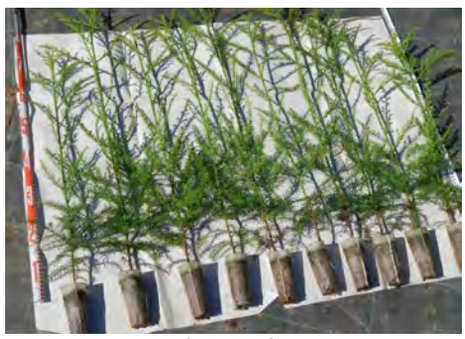
その中で昨年度、花粉症対策初期集中対応パッケージが閣議決定されました。その施策の中に、発生源対策としてスギ人工林面積の減少が位置付けられ、伐採や植替えを加速化することとされました。

## 2　県での取組について

県では、国の花粉症対策に先んじて、平成 30 年に「神奈川県花粉発生源対策 10 か年計画」を策定しており、県内で生産される花粉の量を減少させるため、スギ・ヒノキ林を対象として間伐（抜き伐り）による混交林化や、老齢化したスギ・ヒノキ林を伐採し、花粉症対策苗木へ植替えるなどの対策を進めています。現在県内で生産されるスギ・ヒノキ苗木は全て花粉症対策品種となっており、無花粉スギ・ヒノキ苗木の生産については、国内でも先進的な取組となっております。さらに、今年度は、県内の市町村に対し、国の花粉症対策初期集中対応パッケージを活用した、人口の密集する都市部にあるスギ林の植替えについて働きかけを行いました。

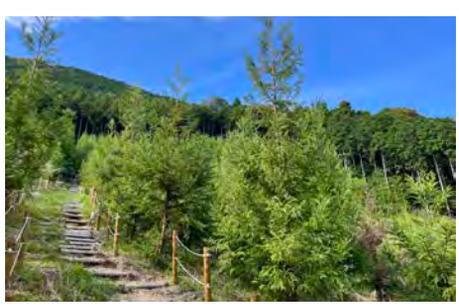
## 3　おわりに

間伐や植替えなどの森林整備を実施することにより、花粉症対策に限らず、土砂災害防止機能や水源涵養機能といった森林の多面的機能が効果的に発揮されるようになります。しかし、短期間で度を超えた整備を行うと逆に土砂災害を誘発させるなどの危険性もあるため、長期的な目線で計画的に実施する必要があり、県では、伐採面積の上限を制限するなどの対策を行っております。また、SDGs や脱炭素社会の実現などのニーズもあるため、県では、それらを踏まえた総合的な取組をより一層進めてまいります。



スギ -BIO ポット

無花粉スギ・少花粉ヒノキコンテナ苗



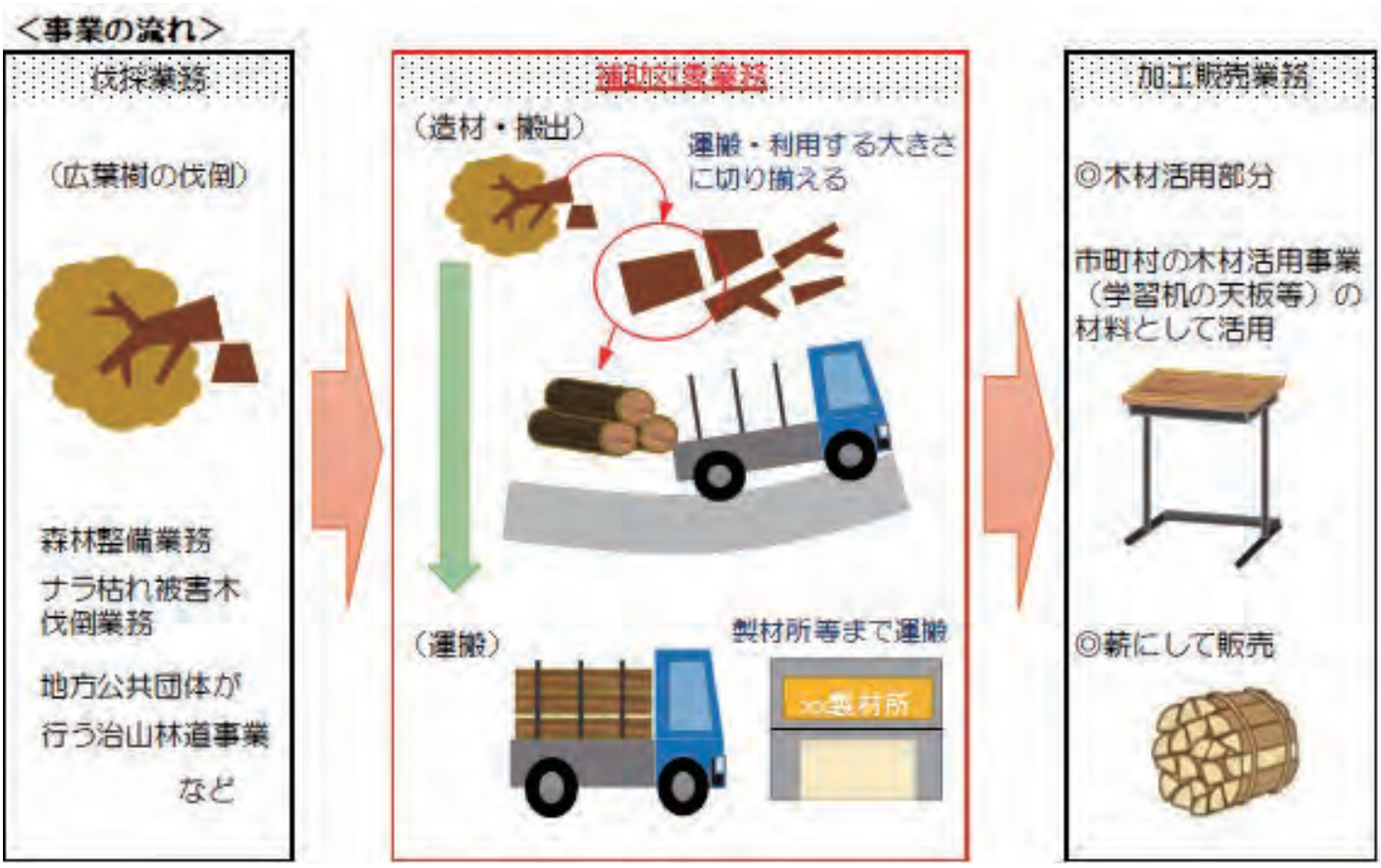
無花粉スギの成長の様子

【植栽前】

【植栽後】

花粉症対策苗木を植栽し若返った人工林

# 3．森林環境譲与税を活用して未利用広葉樹の活用を進めます




森林整備や治山林道の工事の際に伐採された広葉樹や、病虫害の被害を受けたために伐採された広葉樹は、搬出にコストがかかるため林内に放置されたり、廃棄物として処理されることがありました。しかし、これらの広葉樹材には木材や薪に利用できるものも多く含まれています。

そこで、県では貴重な資源である未利用広葉樹の造材・搬出・運搬に要する経費の一部を補助することで、広葉樹材の活用を促進する取組として「広葉樹材活用支援事業」を今年度から開始しました。

この事業の財源として、森林環境譲与税を活用しています。この事業により木材の持つ炭素固定機能を効率的に発揮させ、森林環境譲与税の目的の一つである温室効果ガスの削減に貢献していきます。

（神奈川県環境農政局緑政部森林再生課）

整備した広葉樹林

搬出し造材した広葉樹材

広葉樹材を活用した学習机の天板

# 【茅ヶ崎市】

## 「特別緑地保全地区の広葉樹材で屋外ベンチを作成

### ～清水谷（しみずやと）における森林整備発生材の有効活用推進～

清水谷の景色

「茅ヶ崎には林業はありませんが、このような形で木材を使うことができます。」

茅ヶ崎市公園緑地課の姫野さんが目を輝かせて説明してくれました。

今回事務局では、茅ヶ崎市が緑地を整備した際に発生した広葉樹材を活用して屋外ベンチを製作した、との情報を聞きつけて取材をしましたので報告します。

茅ヶ崎と言えば湘南、海や砂浜を連想しますが、茅ヶ崎市北部には丘陵地が拡がり約 200ha の民有林が存在します。かつては市北部から藤沢市北西部一帯には、大小数多くの谷戸（谷状の湿地）があり、九十九谷戸（くじゅうくやと）と呼ばれていたそうです。

同じく茅ヶ崎市景観みどり課の白濱さんからは、茅ヶ崎のみどりと清水谷について説明を受けました。

「かつて谷戸は水田や畑、里山林として利用されていましたが、その多くは産業廃棄物処分地等として埋め立てられました。しかし、市の北東部に位置する清水谷（しみずやと、面積約 4.9ha）は、市民による反対運動がきっかけとなり、平成４年から市が一部を借地し、平成 24 年には特別緑地保全地区に指定されました。平成 26 年には保全管理計画を策定し、市及び市民活動団体による保全活動により、豊かな自然環境が維持されてきました。

その後、樹木の大径化やナラ枯れ被害等により、元々里山だった樹林地の荒廃が進んだことから、令和５年度末に清水谷の保全管理計画を改定して整備を進めることとしました。保全管理計画の改定前から森林環境譲与税を充当して樹林地の保全・整備を実施していましたが、令和５年度からは３年計画で枯死木や危険木等の伐採をすすめていきます。」

続けて公園緑地課の姫野さんからは、樹林地整備時に発生する木材の活用について伺いました。

「市民には市内の森林への関心を持って欲しいと考えています。本当は整備時発生木材を建築にも役立てたいが現実には難しい。そこで今は公園のベンチや木道等への活用に取り組む予定です。

令和５年度は試行的に、清水谷整備時に発生したクヌギ材を一部使用

清水谷の竹林

した屋外ベンチを委託により製作し、清水谷に隣接する茅ヶ崎市民の森に設置しました。使用したクヌギ材は直径 20cm、長さ 1.2m 程度、これを１本だけ、やっとのことで人肩搬出しました。クヌギ材はベンチの桟木用に加工後、特殊な樹脂含浸加工を施してあります。この加工方法は新しいが可能性がある技術、と考えて採用しました。」

加工事業者が作成した技術資料によると、これは木材に特殊な樹脂を含浸させることにより耐候性や耐朽性を向上させる技術で、塗布加工よりも手間が掛からず低コスト、とのことです。また、この技術の最大の特徴は、木材の使途に合わせて含浸させる樹脂の配合を設計していることで、使用目的にマッチした木材が入手できます。なお、この樹脂含浸加工木材は、第三者機関による促進耐候性試験 (JIS) 及び荷重試験を実施しており、屋外使用に問題無いことを確認済、とのことでした。

今後の予定についても、公園緑地課の姫野さんに尋ねてみました。

「令和６年度は湿地の木道整備を予定しています。この加工方法は木材にとって厳しい条件をクリアできる、我々に必要な技術と考えました。これまで木道の材料には油分の多い木材を使用してきましたが、湿地では１年と持たないこともあり、補修に人手と経費が掛かっていました。湿地でも木材を使用できるとはすごい技術だと思います。

費用の面では、森林環境譲与税を活用されたいという国の方針もあり、市として税を活用して新たな技術を導入することにより、木材利用促進と普及啓発、さらには経費節減も図りたいと考えています。なお、昨年度中に伐採した清水谷産のスギ・ヒノキ材を木道の横木に一部使用し、主部材には県産ヒノキを採用予定です。」

そこで、清水谷の隣にある茅ヶ崎市民の森へ行き、実際にこのベンチがどのようなものかを見てきました。

車を駐め、車道の脇にある階段を３分ほど上ると、広々とした広場に出ました。広場の奥には秘密基地のようなツリーハウスがあります。これは令和３年に森林環境譲与税を活用してリニューアルされたものです。その手前に、緑地整備時に発生したクヌギ材を一部に使用したベンチがひとつ、静かに佇んでいました。

市民の森に設置されたベンチ

落ち着いた茶色のベンチ幅は約 1.2 m、背もたれ部分の横木には、材料の一部に清水谷産木材が使われていることが記載されていました。

ベンチ背板に刻印された説明と二次元コード

さらに二次元コードもあり、スマホで読み込むと清水谷特別緑地保全地区のＷｅｂサイトが閲覧できるようになっています。

この二次元コードから緑地説明 Web サイトにアクセスできる

ベンチ横木の色が濃いものと薄いものがあり、よく見ると薄い色の横木には、ナラ枯れを媒介するカシノナガキクイムシが穿孔した跡があり、こちらがクヌギ材とわかります。

ナラ枯れ被害材も樹脂含浸処理により屋外使用が可能

ナラ枯れ被害木でもこの樹脂含浸加工をすれば屋外使用が可能なので、ナラ枯れ被害材の有効活用にもこの加工技術は役立つもの、と感心しました。なお、濃い色の横木は県産スギをクヌギと同様に加工したもので、この県産スギを加工した木材で製作したベンチはもう一つあり、茅ヶ崎駅近くの高砂 ( たかすな ) 緑地に設置されている、とのことでした。

今回の茅ヶ崎市の「森林環境譲与税で公園緑地整備時発生木材を現地で利活用」の取組は、県内では初めてと思われます。この取組が県内外に広がり、森林環境譲与税に対する住民の理解が進むと良い、と考えながら現地を後にしました。（事務局）

## 豊かな森林づくり事業について

箱根町は神奈川県の西端に位置し、西に静岡県裾野市や御殿場市、北に小山町と神奈川県南足柄市、東には小田原市及び相模湾を望み、南は湯河原町真鶴町と接していますが、地形的には高原と山岳地帯からなっており、他の市町と隔てられています。

約 40 万年前からいくつもの成層火山が集まったことにより、現在の複雑で多様な環境を持つ箱根山が形作られたと言われています。町の近辺に火山があったことから古くより温泉保養地として知られ、現在も国内のみならず国外の方々からにも非常に人気であり、日本を代表する観光地であります。

昭和 11 年（1936 年）には箱根町のほぼ全域が富士箱根伊豆国立公園に指定されました。森林面積は、国有林と町有林を合わせて約 6,900ha で、町の約 75％を占めており、その面積は神奈川県内で 3 番目に大きいものとなっております。

そんな広大で豊かな自然も箱根町の魅力の 1 つであり、観光面と上手く調和するよう森林整備に取組んでいます。

平成 18 年度からは神奈川県の「水源環境保全再生市町村交付金」を充当し、様々な森林整備を展開しています。その森林整備の 1 つとして、四季折々に変化する自然林への樹種転換事業を町有林中心に実施しています。この樹種転換事業は神奈川県森林組合連合会が事業展開している地場産種苗のうち箱根の広葉樹の種で育った苗木を用いて植栽を実施しています。植栽は年 3 回を予定しており、町民や関係団体のほか、町立中学校の生徒にも協力いただき、箱根の自然に関することや森林整備の重要性などを理解してもらうため、植栽の体験を通して伝えています。主にイロハモミジ、ヒメシャラ、ヤマボウシなどの広葉樹を植栽することで、針葉樹と広葉樹とが混ざり合う自然豊かな森林への誘導を図り、良好な森林環境の確保を目指して取組んでいます。

最後に、箱根町は年間約 2,000 万人もの観光客が訪れ、四季折々に変化する山々の景色に今現在も非常に多くの人々を惹きつけています。町の自然は広大で豊かであり、今や観光面でも欠かすことのできない重要な要素となっております。今後についても継続的に森林整備を実施していき、公益的機能の維持増進を目指すとともに自然景観や安全性といった観光面での配慮を常に意識し取組んでまいります。

（箱根町　観光課）

令和 5 年度植栽

令和 6 年度植栽

# 森林づくり活動グループの広場

## 特定非営利活動法人相模原こもれび

### ～市街地に奇跡的に残る「木もれびの森」 森づくり活動～

当会は、相模原市と協定を結び、相模原市南区にある「木もれびの森」で森づくりと保全活動を行っている会員数６８名のボランティア団体です。

活動地は、JR 横浜線古淵駅から歩いて２０分ほどの市街地内に奇跡的に残された、コナラ・クヌギ等を主体とした平地林で、林内には散策路が整備されています。

令和６年５月に行われた「緑の祭典 " かながわ未来の森づくり "2024 in さがみはら」では、多くの県民・市民をお迎えし、当会の活動地で記念植樹が行われました。

【木もれびの森の歴史】

今から３００年ほど前の江戸時代、森の周辺は水もなく人の住めない荒れ野でした。その後土地は開墾されましたが、土地がやせていたため農作物が育たず、クヌギ、コナラ等の植林を行い定期的に伐採し炭焼きを行っていました。雑木林はよく管理され冬には落葉かきをして堆肥を作っていました。

今から６０年位前、燃料は薪や炭からガスや石油に替わり、堆肥は化学肥料に替わったため、雑木林を管理して利用する人はいなくなりました。

枝は伸び放題でササが林の中に広がり森は荒れ、放置された森には蛾が大発生し、暗くなった森にはゴミが不法投棄されました。

木もれびの森を市民共有の財産として将来に引き継いでいくため、相模原市は土地所有者と貸借契約を結び土地を市が管理し、ボランティア４団体や地域住民と協力しながら森の保全を図っています。

現在、開発を逃れた「木もれびの森」は、首都圏近郊にもかかわらず 73ha の広さで雑木林が残っています。

木もれびの森ガイド

木もれびの森（矢印 73ha）と当会の活動地（黄色枠内 12.3ha）「提供　国土地理院」「国土地理院の空中写真　CKT20194-C24-9」2019 年

【団体を結成した目的・経緯、活動趣旨など】

２００１年から市が開催した「森林ボランティア養成講座」の受講者が、２００３年から（公財）相模原市みどりの協会の指導で森の保全活

企業のＣＳＲ活動支援

動を始めました。２００５年には相模原市とパートナーシップ協定を締結し、２００６年にはNPO法人となり現在に至っています。

当会は、①森づくりとその保全管理、②子どもの健全育成に関する普及啓発、③自然環境保護に関する普及啓発、の３つの活動を行っています。

２０１０年には相模原市の指定ＮＰＯに認可され、２０１８年には内閣府主催の第１２回「緑の式典」では内閣総理大臣賞を受賞しました。

内閣府 HP

【日頃の活動について】

「森づくりとその保全管理」を事業の核として、毎週１回の定例活動を行っています。

12.3ha の活動地で、春から晩秋までは林床の下草刈りと散策路の草刈り、晩秋から春までは枯損木等の除伐と林外への排出、発生材は薪や木工材等として有効活用しています。

「普及啓発事業」では、行政主催のフェア等に出展し市民への広報活動を行うと共に、近隣の小中学校の環境学習支援として広葉樹苗の植樹や自然観察会などを行っています。

植　樹

【今後の目標や将来展望について】

現在の木もれびの森は伐採をされないで育った樹齢６０年以上の大径木がほとんどで、５年程前からナラ枯れの被害が目立つようになりました。現在は対症療法的に市の指定業者とボランティアが毎年 100 本程度の被害木の除伐を行ない、除伐後のスポットにはどんぐりから育てた苗を植樹しています。

木もれびの森でナラ枯れを経験した森の木々達は、「大径木に育った広葉樹林から昔の萌芽更新による若い健全な森に戻して欲しい。その為に、森づくりの方針・目標を再検討して定めた森の活用計画に沿った維持管理をして、相模原市の貴重な財産である木もれびの森を将来に残して欲しい」、と言っているのかもしれません。

今後も皆様からのご指導ご支援をお願いすると共に、安全第一で楽しく活動を続けていきたいと考えています。

（特定非営利活動法人
相模原こもれび　　平野　和夫）

特定非営利活動法人
相模原こもれび

会員集合写真

# 事務局便り
## INFOMATION

**1　第 15 回通常総会が開催されました**

（1）日時 令和 6 年 5 月 20 日 (月 )15 時～
（2）場所 厚木商工会議所
（3）議事
①令和５年度事業報告及び収支決算報告
②令和６年度事業計画及び収支予算（案）
③令和６年度会費の賦課及び納入方法（案）
④役員の改選（案）
議案は原案通り承認決定されました。

**2　役員紹介**

令和６年６月１日現在の当協会の役員は次のとおりです。

神奈川県森林協会役員名簿

令和６年６月１日現在

| | | |
|---|---|---|
| 会長 | 秦野市長 | 高橋　昌和 |
| 副会長 | 南足柄市長 | 加藤　修平 |
| 副会長 | 箱根町長 | 勝俣　浩行 |
| 副会長 | 県森林組合連合会会長 | 小泉　清隆 |
| 専務理事 | 神奈川県森林協会（事務局） | 内山　豊 |
| 理　事 | 横浜市みどり環境局長 | 鈴木　貴晶 |
| 理　事 | 川崎市長 | 福田　紀彦 |
| 理　事 | 相模原市長 | 本村　賢太郎 |
| 理　事 | 横須賀市長 | 上地　克明 |
| 理　事 | 鎌倉市長 | 松尾　崇 |
| 理　事 | 小田原市長 | 加藤　憲一 |
| 理　事 | 厚木市長 | 山口　貴裕 |
| 理　事 | 伊勢原市長 | 髙山　松太郎 |
| 理　事 | 松田町長 | 本山　博幸 |
| 理　事 | 山北町長 | 湯川　裕司 |
| 理　事 | 清川村長 | 岩澤　吉美 |
| 監　事 | 茅ヶ崎市長 | 佐藤　光 |
| 監　事 | 愛川町長 | 小野澤　豊 |

| | | |
|---|---|---|
| 顧問 | 県緑政部長 | 能戸　一憲 |
| 参与 | 県森林再生課長 | 大貫　信近 |

任期　令和８年５月31日

**3　令和 ５年度森林林業功労者が会長より表彰されました**

地域の林業の発展や、森林環境の保全に顕著な功績のあった個人、団体を表彰しています。

令和５年度は、次の１名１団体の方が長年の功績が認められ、会長より表彰されました。おめでとうございます。

・個人表彰　長谷川　理恵　様
・団体表彰　（一社）さがみ湖 森・モノづくり研究所／MORIMO　代表理事　淵上 美紀子　様

会長を中心に左側　淵上様、右側　長谷川様

**4　研修会を開催しました**

（1）　令和６年度森林・林業基礎研修

令和６年５月 15 日、24 日の２日間に渡り、今年度の市町村新任者を対象に森林・林業行政に関する基礎研修会を開催しました。参加者は５市町から９名（会場７名、ZOOM ２名）が、神奈川県森林再生課が開催するかながわ森林塾「森林体験コース」の参加者とともに森林の調査方法や公益的機能の高い森林づくり等について学びました。

基礎研修の様子

（2）QGIS 研修会

令和６年５月 30 日、神奈川工科大学ＩＴエクステンションセンターで、朝日航洋㈱和田陽一主任技師をお招きして QGIS 研修を開催しました。参加者は 23 名。今年度から QGIS 研修は、「基礎編」と「応用編」の２部構成とし、今回の開催は「基礎編」として、GIS の概要や実際に QGIS を用いて地図データを加工したり、図面の作成を行うなど、使用法の習得を目的として開催しました。

研修会の様子

なお、「応用編」は、8月27日に開催予定で、「基礎編」を習得した方を対象に、森林・林業行政の実務に役立つスキルの習得を目的に開催します。

## 5　神奈川県森林協会のロゴをご紹介します

ロゴには「森林の豊かな恵みを次世代に」というスローガンのもと「その時代の人が手をかけて森林を大事に守っていく」という思いが込められています。

神奈川県森林協会

GRAPHIC IDENTITY

森林の豊かな恵みを次世代に

木を形どりながら、根と手に見立てられるシンボルマークは、地中で木を支える根のように、人の手が森林を支えていること、神奈川の森林・林業関係者の手によって、豊かな恵みをもたらす森林づくりを推進することをあらわしています。

## 6　表紙写真解説

5月26日（日）の青空のもと、相模原市南区内の「木もれびの森」で「緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024inさがみはら」が開催されました。　参加者は、総勢717名。会場内には、「NPO法人相模原こもれび」ほか計18団体のブースが出展され、出展者と参加者との交流が行われ、会場内にはあちこちで笑顔があふれていました。祭典の様子は本号「森のニュース」をご覧ください。

植樹の様子

広報誌 緑の斜面 No.083 令和6年07月31日発行

編集・発行　神奈川県森林協会

住所　〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号 サンシャインビル6階604号

電話・FAX　046-240-0500

k-crk.com